

らい 来ぶらり53

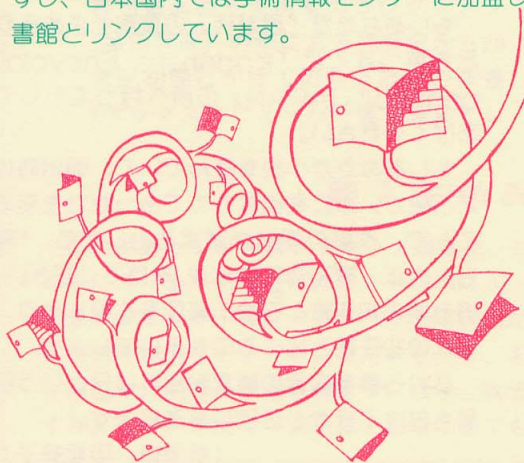
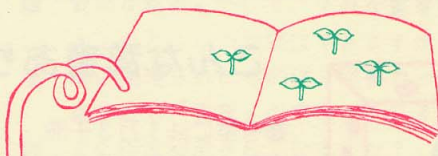
「情報化社会」ということばが一般的に使用されるようになってすこしばかり時間がたっています。図書館は過去から常に、人間の活動にもなって生まれる情報を要約した情報の貯蔵庫の役割を果たしてきました。一方で「情報化社会」はどうやら人間の行動に対して「情報が活動の源にあって、それをもっと意識して行動しなさい」ということを示唆することばであるようです。その意味では、図書館をもっと有効に使いなさいという意味でもあるのです。でも残念ながら、情報化社会といったときに、人の頭に最初に浮かんでくるのは、図書館ではなく、コンピューター・センターとか、インターネットというのが実情です。新しい文明の利器に興奮するのは人のさがですから仕方ないかもしれません。

学習院大学の図書館は4つの情報貯蔵庫に現在はわかれています。大学図書館、法経図書センター、文学部（各学科研究室）、理学部（物理・化学、数学科）図書室の4つです。しかし、現在はどの図書館もコンピューター・ネットワークによって結ばれつつあり、利用者はどの図書館でもほかの図書館の所蔵図書について知り、手に入れられるようになってきています。たとえば、大学図書館では、カナダのアトラス、アメリカのOCLCの登録図書は知れまらずし、日本国内では学術情報センターに加盟している大学350校、インターネット加盟校の図書館とリンクしています。

情報化社会と

図書館

図書館長 森田道也
(経済学部教授)



情報化社会を生き抜く知恵が要求されています。それはネットワークの利用技術だけでは無理です。情報貯蔵庫を知り、情報を引き出し、情報を交換し、情報を新しく創造し、そしてその創造からまた発展する有用な情報を得る能力を鍛えなければいけないと考えます。その環境が整いつつあります。あとは利用者がいかに意識的に努力できるかです。とくに新入生諸君の方々は、大学在学中に膨大な情報と有効な手段を自分の頭脳の味方できるようにして、情報化社会から最大の恩恵をうけられる力を養ってください。



Pとの出会い — まず雑誌室から

長いこと開架図書室の一角で居候を続けていた雑誌。昨春やっと独立し、部屋の主になった。

図書館2階の左手にある雑誌室には、当年度分の雑誌が約300種ある。入ってすぐの雑誌架には『世界』『Newsweek』などの総合誌や一般週刊誌。隣は、哲学、歴史、社会科学、自然科学、芸術、文学関係等と、主題ごとに配架されている。『青春と読書』『碧い風』『世界の動き』など出版社、企業、官公庁のPR誌や、博物館、美術館のニュースもある。すべて自由に見ることができる。

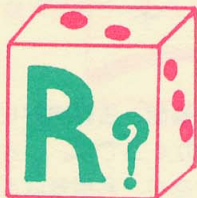
雑誌架の前面にあるのは最新号。フタを開けると、中にバックナンバーが入っている。別冊や臨時増刊号は、利用しやすいよう前面に出してあるものもある。雑誌は表紙の絵や写真で、その内容を表現しているものも多い。『歴史学研究』『判例時報』などは表紙に

目次を載せてある。雑誌架をぐるりと見回すと、最新の話題や、時の人が目に飛び込んでくる。春の昼下がり、ゆったりとした時をここで過ごしてはいかかなものか。

さて、表紙右上カ右上の角にPs320.5-7のような英数字がある。これは図書館が雑誌のタイトルごとにつけた請求記号。先頭のPは雑誌を始め、新聞、紀要、研究報告、年鑑、白書等の逐次刊行物につけた別置記号であり、“Periodical(定期刊行物)”に起因すると言われている。目録カードや端末検索の画面でお目にかかることも多からう。

図書館の書庫には約3,000種からなる膨大な逐次刊行物がある。『思想』『展望』『佛教藝術』など、創刊号から所蔵しているものも多い。『白樺』『太陽』など、明治期創刊の雑誌も保存されている。これらたくさんの資料が皆さんとの出会いをまっけている。

(雑誌係 石田京子)



こんな辞書あります

参考室には1万3千冊の辞書・事典類があります。ちょっと見回して使ってみましょう。

①あなたが「南アルプス」の山行きを計画して資料を集めたいなら、『山と溪谷』『岳人』といった雑誌の総目次・総索引があります。これで過去の特集記事から必要な記事や面白い記事が拾えるでしょう。

②もしあなたがSidney Sheldonの小説を探すなら、『翻訳図書目録』を見ましょう。1945年から現在まで日本で翻訳された図書が載っているので、探している作品が既に翻訳されているかわかります。書名がわかっても、その本が絶版になっていたら買えませんから、そのために『日本書籍総目録』でまだ入手できるか確認しましょうか。①も②も参考室「書目・索引コーナー」にあります。

次に「一般参考図書コーナー」に目を移してみましょう。

『イミダス』『現代用語の基礎知識』に始まって「人名事典」と各種「白書」があります。もちろん「語学辞典」は力をいれて集めています。ハンブルクからタイ、ベトナム、カンボジア、モンゴル語とそれに西洋を含めたら何か国語になるのでしょうか。

忘れてならないのが「百科事典」です。

もしあなたが『君が代』の英訳を求められたら真っすぐに『Kodansha Encyclopedia of JAPAN』の所へ行って示してあげてください。

もしあなたが小説を読んでいて、明治時代に石鱈せつげんがいかに高価なものであったかを知ること、作品の理解が深まるとしたら、『明治・大正・昭和値段史年表』を見てください。明治期の初任給せつげんと石鱈の値段を比較したり、現代の初任給と比べるのもよいでしょう。

これら参考図書の請求記号にはRという記号を付けてほかと区別してあります。

(参考係 甲斐静子)

ちょっと書庫まで INインタビュー ③

法 経 図 書 セ ン タ ー

の 貴 重 書 ↑ ↓ ← →

大学図書館、日本語日本文学科研究室について、今回で3回目になるコーナーです。

ての学問』など)

山岡万之助文書(大正・昭和時代を中心とする司法省・内務省関係の資料)

—この資料はマイクロフィルムにもなっていますので、そちらをご利用ください—

そして、18・19世紀のフランス民法関係の資料などがあります。

編集委員:法経図書センターでは、どのようなものを貴重書として扱っていますか?

法経図書センター:主に1850年以前に刊行された洋書です。それ以後でも、とくに資料的価値があると認められるものも含まれます。

編:例えばどのような資料がありますか?

法:アダム・スミス著『諸国民の富(国富論)』(1776年刊 初版—ダブリン版)・『道徳情操論』(1759年刊)・『哲学論文集』(1795年初版)、J. ハリントン著『オセアナ共和国』(1656年刊)、T. R. マルサス著『経済学原理』(1820年刊 初版)、J. S. ミル著『経済学議論集』(1844年刊 初版) 経済学者で本学政経学部長をなされた舞出長五郎先生所蔵のコレクション(舞出文庫)の中にある18世紀から20世紀初頭にかけての経済関係の洋書(マックス・ウェーバー著『職業とし

編:購入はしていますか?

法:貴重書として、特別に購入はしていません。

編:どこに置いてありますか?

法:一般の書架とは別に書庫の中の「貴重室」にあり、空調のきいた状態で保管しています。

編:資料を検索していて、それが貴重書であるかどうかの判別はできますか?

法:最近整理されたものは、図書カード・端末とも「貴重」の表示があります。

編:どの程度利用されていますか?

法:あまり利用されておりませんが、山岡万之助関係文書については学外からの利用もあります。

編:本が壊れた時はどうしていますか?

法:専門の業者に修理を依頼しています。

編:今後貴重書展示の企画などはありますか?

法:現在は、とくに考えておりません。

編:ありがとうございました。

新入生のみなさんへ

法経図書センターはピラミッド講堂東、13階ビル東2号館(通称:法経教育研究棟)の中にあります。そのため東2号館内に入ってもこの建物の中に図書館があるとは思えませんが、エレベーターで5階に上がると吹き抜けの大きな空間が広がり、正面には世界地図をモチーフにしたレリーフ、またアーチ型の天窓も望めこれまでの図書館とは違った明るさが楽しめます。法学、政治、経済、経営学への蔵書の片寄りはありませんが、本学の学生なら文学部でも理学部でも平等なサービスが受けられます。

本を求めてどこまでも ◆◆◆

「この本、書架にないのですが」と利用者から問い合わせを受ける。貸出中の借用証、開架図書室、書庫、不明図書リストなど、可能な限りさがしてみる。ここまでの調査でほとんどの資料がどの状態になっているか判明しますが、それでも捜し出せないものはいったん調査を打ち切ります。そして、改めて調べ直し、発見できたら請求者に連絡します。

カウンターで資料の請求や問い合わせを受けた時、どのような状態になっているか即答できることが望ましいのですが、実際にはそう簡単にかかないケースも多々あります。貸出中と分かっているものでも、返却期限を大幅に遅れているケースにはかなり苦労します。

図書館では、返却予定日を一週間経過したものについて、返却されていないことを確認した上で電話連絡します。うっかり忘れていた人は、この連絡でほとんど返却してくれますが、なかには何度督促しても反応のないことがあります。場合によっては、電話やハガキでの督促、帰省先への連絡等、1件について15～20回もの手間がかかってしまいます。そうした本に限って、利用者からの請求があり、カウンターでの対応に苦慮します。

また、図書館業務のひとつに紛失図書の処理があります。これも単純ではありません。カード目録や端末で紛失図書のデータを調査した上で『日本書籍総目録』を調べたり出版社へ問い合わせたりします。その結果、購入可能のものであれば同一図書で弁償してもらいますが、品切れや絶版などで入手できない場合は、①似たような内容・価格の図書を調査し、その中から図書館で所蔵していないものを選び出して代替弁償してもらい、紛失図書の除籍手続きと弁償本の新規受入をします。②図書館資料として所蔵しておきたいものは、学内にあれば研究室から、なければ他館から借用して、コピーをして製本します。

以上のような処理をして、利用可能にするため、ラベルを貼り書架に並べます。

このように、できる限りの手をつくして、元の場所に本が収まり、利用者を待つ状態にするよう、カウンターの内側で“日夜”努力を重ねているのです。

図書館の資料はできるだけ利用してほしいのですが、借りた本は返却期限を守り紛失しないよう責任をもって利用してください。次の利用者のためにも、図書館職員のためにも。

(運用係 上野しのぶ)



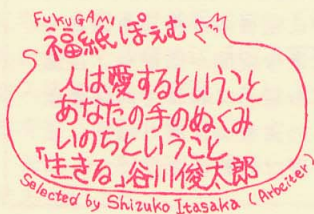
新入生のみなさんへ

理学部(物理・化学)図書室から

南4号館1階 ― 蔵書の3分の2を占める欧文の専門図書・雑誌が、あなたを待っています。パラパラとページをめくる、目にとびこんでくる化学式、数式などなど… 気分はまるでアインシュタイン!“リトシヨ”の常連になることが、科学者への道です。はやく“リトシヨ”と仲良くなってください。

数学科図書室から

方程式の迷宮から抜け出せないあなた。“すーと(数学科図書室)”の入り口がその出口です。3万冊の書物で構成された情報の大海原で、エレガントな“解”をみつけませんか。二人のナビゲーターがあなたを応援しています。



来ぶらり No.53 1996年4月1日発行
発行責任者：森田道也 編集委員：富田正貴 篠原三佳
学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1
☎03(3986)0221